「自然まるかじり体験塾」

荒川区青少年育成地区委員会連絡協議会

令和３年８月30日に「第35回自然まるかじり体験塾」を実施しました。

これまで２泊３日で実施してきた「自然まるかじり体験塾」ですが、今回は小学校４年生から６年生までの児童が、千葉県鴨川市の大山千枚田で日帰り農業体験を行いました。

稲刈り体験では、初めて田んぼに足を踏み入れ、初めて鎌を手にした子どもたちが農家の方の指導を受けながら、真剣な表情で作業する姿が見られました。毎日食べているお米が実っている様子を近くで目にして、実際に作業することによって、食べ物のありがたさ・大切さを学ぶことができました。

藍染体験では、棚田で育てた藍の葉っぱを煮出して染液を作り、白いハンカチをきれいな藍色に染め上げました。一人一人模様が異なる世界で一つの素敵なハンカチが出来上がりました。

今後も、「あらかわの心」５つの取り組みの一つ、「体験」の場を提供することを通じて、青少年健全育成に努めていきたいと思います。

稲刈りの様子

きれいに染まった藍染ハンカチ

クイズ・アンケート

クイズとアンケート両方にお答えください。正解者の中から30名の方に「あらかわの心」オリジナルエコバックをプレゼント致します。郵送かメールでご応募ください。

● 郵送の場合

はがきに、住所、氏名、電話番号、クイズの答えとアンケートをご記入の上、下記までお送りください。
〒116-8501
東京都荒川区荒川2-2-3
荒川区子ども家庭部児童青少年課内
あらかわの心ニュース
「クイズ・アンケート」係

● メールの場合

メールの件名を下記のようにして、１．住所　２．氏名　３．電話番号　４．クイズの答え　５．アンケート①②③をご記入の上、下記までお送りください。

メール件名　あらかわの心
「クイズ・アンケート」係
Eメール　arakoko@city.arakawa.tokyo.jp

● 締め切り

令和３年12月15日。当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

なお、いただいたご意見等は、ニュース等の広報誌でご紹介させていただくことがありますので、ご了承ください。

クイズ

○○○の中に入る言葉は何でしょう？

「あらかわの心」推進運動は「あいさつ、きまり、思いやり、体験、見守り」という＜心を○○○５つの取り組み＞を実践しています。

アンケート

① このニュースはどこで手に入れましたか。
② もっとも興味・関心をもった記事は何ですか。
③ その他、ご意見・ご感想等がありましたら、お願いします。

オリジナルエコバック

第31号　令和3年10月1日発行
発行　「あらかわの心」推進運動区民委員会事務局
〒116-8501　荒川区荒川2-2-3　（荒川区子ども家庭部児童青少年課内）
TEL.03-3802-3111（内線3833）　FAX.03-3802-3174
<Eメール> arakoko@city.arakawa.tokyo.jp
<ホームページ>
右記QRコードから、「あらかわの心」推進運動のホームページにとぶことができます。

「あらかわの心」ニュース

「あらかわの心」推進運動シンボルマーク

今号では、参加団体の活動報告を中心にお届けします。困難な状況が続いていますが、どの団体も感染症対策を徹底しながら活動している様子をお伝えします。

第31号
令和３年
10月１日発行

川の手荒川まつりでPR活動

令和３年４月29日～５月９日、第34回川の手荒川まつりがオンラインで開催されました。「あらかわの心」推進運動区民委員会では、「あらかわの心」カルタを題材にした寸劇の動画配信を行いました。

寸劇は「あらかわの心」カルタの読み札の中から、「心をつなぐ５つの取り組み」をテーマに合わせた５作の読み札をストーリー化したもので、「あらかわの心」の運動を楽しみながら理解してもらうものです。

今回は、５つの取り組みのなかから「あいさつ」「思いやり」「体験」の３つを取り上げ、対照的な行動をするＡ君とＢ子ちゃんのどちらの行動が正しいか、画面越しの視聴者の皆さんに呼びかけながら、一緒に答えを考えました。終盤にはシンボルマークであるハートマークも登場し、視聴者の皆さんに楽しんでいただきました。

動画配信という新しい取り組みとなりましたが、今年も多くの方に「あらかわの心」を知っていただくことができ、充実した活動となりました。

【あいさつ】
荒川は
笑顔とあいさつ
にあう町

【思いやり】
おばあちゃん
いっしょにわたろう
小さな手

【体験】
はじめての
おつかいうれしい
お手伝い

「あらかわの心」推進運動とは？

「まず大人が行動する」ことで子どもの手本となり、「大人と子どもが一緒に行動」し、「地域ぐるみで子どもを見守り育てる」という3つの視点に基づき、「あいさつ・きまり・思いやり・体験・見守り」の心をつなぐ5つの取り組みを実践することで、大人も子どもも互いに尊重し、共に生きる地域社会の実現を目指す運動です。

配信でPR

「あらかわの心」カルタのご紹介

このカルタの読み札は、あいさつ（水色）・きまり（オレンジ）・思いやり（黄緑）・体験（ピンク）・見守り（黄色）の５つの取り組みを表現した内容になっており、文字の部分が５色に色分けされています。

ぜひ大人も一緒に読んでいただき、「あらかわの心」について、楽しみながら一緒に考えてみてください。

カルタは荒川区役所２階の児童青少年課窓口で販売しています。（一組500円）

心をつなぐあいさつ運動

荒川区立尾久第六小学校
校長　高橋　美香

「おはようございます!」「おはようございます!」
挨拶は人間関係の基本です。本校では挨拶、特に一日を気持ちよく始める朝の挨拶を大切に指導しています。校門に当番が交替で立ち、登校してくる子どもたちに挨拶をしています。

しかし、コロナ禍にあって、声を出すことをためらう子供も多く、挨拶の声も小さくなっていました。そんな中、レインボーこども会の方々が進んで校門に立ち、元気な挨拶をしてくださいました。それぞれにご多用にも関わらず、子どもたちのために動いてくださる、その気持ちに教職員一同、本当に励ましていただきました。

子どもたちも、その思いに応えるように徐々に明るい挨拶を返すようになり、今では元気な挨拶の声が戻って来ています。こうして温かく見守り支えてくださる地域・保護者への感謝を忘れず、教職員一同、子どもたちの成長のために力を尽くしていきたいと願っています。

今日も元気に朝の挨拶を！

夜間パトロール

青少年育成南千住地区委員会
補導部長　高田　博志

7月20日（火）夜8時から、青少年育成南千住地区委員会の役員・補導部員が南千住警察署に集合して、夜間パトロールを実施しました。

当日は区内中学校の一学期最終日で、夏休み前に子どもたちの気持ちが緩んで危険な行為などをすることがないよう見回りをしました。また子どもたちに悪影響を及ぼす図書がコンビニに陳列されていないか、南千住警察署の方にも同行頂いてチェックしました。

見回りの際は、交通事故のリスクが高いので、白い腕章をつけ、光る誘導灯を持って交通安全に気を付けました。当日は夜になっても暑さが厳しく、ペットボトルのお茶を持ち、普段よりもコースを短くしました。

また、感染防止のため、マスクを着用し会話を控えめにし、間隔をあけて密にならないよう行動しました。

パトロールを終え、危険な行為もなく、子どもたちを取り巻く環境も健全であることが確認できました。

ディスタンスをとりながら実施

大切にしたい地域のつながり～続けていこう！ラジオ体操

南千住六丁目本町会青年部長　青木　百合子

我が町会のラジオ体操は、長年、瑞光小学校のPTAの皆さんと協力して行ってきました。残念ながら昨年は、コロナ禍で中止になりました。今年はコロナウイルス感染拡大はおさまってはいませんが、スポーツセンターの野球場は、広さが十分にありますので、しっかりソーシャルディスタンスをとりながら行いました。

夏休みですが、子どもたちも早起きして元気に参加してくれました。大人も子どもも一緒に集うラジオ体操、そこには「我が町の子どもたちは、地域みんなで見守ろう」そんな思いも込められていると思います。今年は例年より日数を減らしましたが、毎回50人前後の皆さんに参加していただき、無事に終えることができました。

ご近所のつながりが希薄になっている今、世代を超えて集い合う地域行事の大切さを痛感します。これからも、こうした良き伝統を引き継ぎながら、ラジオ体操を続けていきます！

大人も子どもも一緒に体操！

尾久の街のあいさつポスター

荒川区立尾久西小学校　PTA顧問　青田　京子

四季ごとに、尾久の町会掲示板に掲示される、子どもたちが描いた「あいさつポスター」を、皆様もご覧になったことがあるのではないでしょうか。

これらのポスターは、尾久地区の小中学校10校に通う子どもたちから届けられた作品です。平成15年に始まり、当初はポスター部門と標語部門がありましたが、子どもたちの作品の中に標語が含まれる様になった為、現在のポスターの形になりました。選考会で季節ごとに分類し、展示することで、皆様にご覧いただいています。

ポスターの展示にあたっては、印刷、袋詰め、配送、掲示まで全て手作業で行われており、各小学校のPTA役員の皆様など多くの方々のご協力を得て、町会掲示板にお届けしています。また、「あらかわの心」推進区民委員会事務局である、区役所2階児童青少年課前にも掲示されております。

選考会の様子

このポスターには、子どもたちのあいさつへの思い、あいさつを大切にする尾久の街の気持ちが沢山詰まっています。街でポスターを見かけたら、是非多くの人の思いがこめられていることを感じていただけますと、とても嬉しく思います。

「尾久母の会」ボランティア活動

尾久母の会会長　太田　文子

昭和23年、戦後の荒廃の中で、「人の子も我が子と同じ愛の手で」を合言葉に、尾久警察署を母体とし、子どもたちの健やかな成長を願って、尾久母の会は結成されました。

青少年の社会参加等への協力、非行防止、交通安全等、様々な活動を支援して参りました。

コロナ禍の中、「中高生の居場所：ホットステーション」の食事作りのボランティア活動を始めて1年が経ちました。毎月第2木曜日の夕食（約30人分）を献立から考えて担当しています。後片付けの洗い物等は、子どもたちが率先して参加し、育成者、ボランティアの方々との多世代交流の場は、あたたかい雰囲気のなか、笑顔があふれています。

新型コロナウィルスの感染拡大の状況で、毎年行ってきた活動が出来なくて歯がゆい思いですが、その中で、私達の子どもたちに「母の笑顔」を伝えられるよう、今後の活動に力を注ぎたく思っております。

食事作りのボランティアの様子

「汐入父親の会」の活動紹介

汐入父親の会代表　松田　亮雄

私達「汐入父親の会」は、南千住汐入地区にある「汐入小学校」「汐入東小学校」在校生の保護者を中心に構成される会です。両校のPTAや地域の団体と連携しながら、自分の子どもの笑顔はもちろん地域の子どもたちの笑顔のために、日々活動をしています。

私達は、年間を通して様々な活動を行っています。両校のPTAと連携して行うものとしては、「学校イベント」運動会や餅つき会のお手伝い、地域団体と連携して行う「地域イベント」町会盆踊り、胡録神社神輿渡御、南千住スポーツクラブイベントお手伝いがあります。そして私達が企画・開催するものとしては、花火大会、防災キャンプ、紙ヒコーキ大会などがあり、地域の多くの皆さんに「笑顔」と「絆」をお届けできればと頑張っています。

メンバー集合写真